卒業生による講演会

中一対象

令和元年十月四日(金)

(株)テルミーソリューションズ
代表取締役社長
山本光平氏(七期生)

毎年、中一生に熱いメッセージを送ってくださる山本さん。今回もテーマは「自分以外の人を幸せにする力を養う」。サラリーマン時代のことや趣味の大カジキ釣り、更には現在研究中の頭髪から病気を早期発見する理論と方法など話は多岐にわたりました。どの話題でも、「失敗も生かす」「上手くいっても満足しない」ことが大切であると、強調されました。中一生にとっては初めての講演会でしたが、自分たちの大先輩からの話ということもあって、たいへん熱心に聴き入っていました。

(山内)

中三対象

令和二年二月二〇日(木)

原島マネジメント研究所代表
原島敏郎氏(七期生)

まず、原島さんから生徒に、「皆なんのために働くのか?自分はどんな仕事に向いているのか?」と問いかけがありました。

仕事は自分が興味・関心があるもので、世の中に役立てるものが良いということを聞きました。

世の中には3万種類の仕事があるそうです。アメリカの心理学者ホランドは、「人には特性があり、職業にも特性がある。人にはそれぞれ適した職業がある」ということを提唱しました。

仕事の特性は、人に関心があるのか物に関心があるのか、データに興味があるのかアイデアに興味があるのか、に分類されるそうです。これをもとに、更に職業の特性を六タイプのグループ分け、その中で自分がどの分野の仕事に関心があるのかを考えました。

生徒達は全員、沢山の職業の名前を書いたカードと、職業分類シートが入った「ハピキャリセット」という教材を使って自が関心のある職業を調べました。

最後に、将来自分らしく働くためには、今、中学・高校生活をポジティブに有意義に過ごすことが大切であるという話で終わりました。

(小野)

高一対象

令和元年六月十五日(土)

六月十五日(土)、高校一年生を対象とする進路講演会が開催されました。

この三月に卒業したばかりの二名が後輩のために時間を割いてくれました。

神戸大学農学部生物学科の樋笠陸君は、本校の20分テストの重要性について熱く語ってくれました。2週間サイクルで実施される20分テストにより、振り返りができたこと、基礎力が養われたことを強調してくれました。

次に大阪大学文学部人文学科の北村都和さんが大学生活の楽しさについて語ってくれました。部活動、アルバイト、そして将来を見据えた教職課程のこと、本当に楽しそうに伝えてくれました。その後、現在教育実習中の、慶応義塾大学の西原さん、近畿大学の水野君からのお話しもありました。質問も多数あり、予定時間をかなりオーバーしましたが実りのあるひと時をすごせました。今後の高校一年生諸君もきっと活躍することでしょう。皆さん、本当にありがとうございました。

(土居輝)

✤講演者の言葉

神戸大・農　一回生
樋笠　陸さん
(52期)

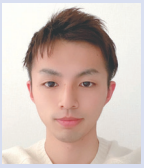
高校生活が始まり、徐々に近づきつつある受験の足音に不安を抱き始めている人も増えてきていると思います。しかし僕は、そんな状況だからこそ、二〇分テストを頑張ってほしいと思います。毎日テスト勉強をしなければならないのは、確かに大変ですが、その分、基礎固めや知識の定着にかなりの効果を発揮するはずです。ですが、日々を楽しんでこその高校生活というのもまた事実です。遊びと勉強のバランスをとり、この三年間を是非実りあるものにしてください。

大阪大・文　一回生
北村　都和さん
(52期)

高校一年生の皆さんは、大学受験という道へ一歩踏み出しました。時にはその道にある高い壁にぶつかるかもしれません。自分は何を学びたいのかという具体的な将来の目標を思い描くと、壁が扉へと変化します。一生に一度しかない高校生活は始まったばかりです。支え合える仲間との時間を大切にし、未来への扉を開ける努力を惜しまないでください。皆さんの周りには応援してくれている人がたくさんいます。

慶應義塾大・文　四回生
西原　佳泉さん
(49期)

これから本格的に受験を意識した生活を始める皆さんに何か一言伝えるならば、「後悔のないように」、これに尽きます。各々が定めた目標に向かって突き進んでいく訳ですが、走り終えた道を振り返った時に、やり切ったなと思えるようになってほしいと思います。これが自分の全力を出し切った結果だと胸を張って言えるように、これからの三年間、ひたすらにがむしゃらに走り抜けてください。



近畿大・理工　四回生
水野　智哉さん
(49期)

私が皆さんに伝えたいことは「一人で抱え込みすぎない」ということです。私にはサッカー部を途中でやめてしまった後悔があります。相談せずに一人で抱え込んで逃げだしてしまいました。しんどいときつらいときは必ずあります。先生方や友達に相談してみましょう。きっといいアドバイスをくれると思います。最後になりましたが、皆さんが後悔なく素晴らしい高校生活を送れるように願っています。

中二 校外学習

今年度は、十二月二十日に実施しました。テーマは「日本の伝統芸能に触れる」です。

午前は、天満天神繁昌亭での落語鑑賞。本校十九期生の落語家、林家染雀さんのご尽力により、貸し切りで上方落語を体験しました。落語入門とお囃子解説に続いて、桂あやめさんと染雀さんの落語、松旭斎天蝶さんの手品と、充実した内容でした。ナマの落語の凄みを語らう生徒の姿が印象的でした。

大阪城公園での昼食をはさみ、午後は山本能楽堂へ移動し、狂言を鑑賞。こちらは本校の美術科講師で狂言師でもある安東睦郎先生のお力添えによるものです。朗朗と響く演者の声と無駄のない滑稽な所作に、生徒たちは心動かされたようです。

今回の校外学習では、生徒が事前に落語と狂言について調べ学習をしており、当日朝に視聴覚室でiPadを用いたプレゼン大会を行いました。座学と学び合いを踏まえた体験が、生徒たちの深い気づきにつながってくれればと思います。

(堀)